



●絵画の中の洗濯風景:ポンペイの洗濯作業壁画

●なるほど納得!衣生活の知恵:

ブリーツの知識-素材によって違う加工

●繊維と服飾の物語:

繊維製品の取扱表示記号が8月から一部改正  
手洗いマークの意味を知っていますか

## 絵画の中の洗濯風景

### ポンペイの洗濯作業壁画



ナポリ国立考古学博物館(登録番号 9774)

この壁画は、イタリア・ポンペイの遺跡から発掘された染色と洗濯を兼業していた店舗(フロニカ)の作業風景のフレスコ壁画とされています。

紀元79年ヴェスヴィオ火山の噴火によって埋もれた古代ローマの都市ポンペイには、2000年の時を経て当時の生活をしのばせる多くのものが封じ込められ、現在も発掘が続けられています。

ナポリ国立考古学博物館の解説によれば、フロニカの柱に描かれた作業中の労働者を描いたものだという事です。1人はウールの布をブラッシングして汚れを落としています。また、もう1人は生地を白くするために燻蒸で硫化するために使用されるドーム状のケージを運んでいます。ケージの上にフクロウが止まっていますが、これは羊毛労働者の守護者である女神アテナを象徴しているとされています。2000年以前のローマ帝国時代、服飾の製造や加工、洗濯に関する専門的な職人たちの仕事ぶりを知ることができます。



### ブリーツの知識

#### 素材によって違う加工

ブリーツで最も耐久性が高い素材はポリエステルです。PETボトルと同じ原料のポリエステルは、プラスチック製品のように熱でブリーツ成形され、水に濡れても取れません。動物の毛繊維であるウールは、ヘアパーマと同じように熱と薬品による加工法でセットされます。しかし、雨などに濡れるとヘアパーマと同じようにややゆるんでしまいます。しっかりとプレスすると新品のように復元することができます。

繊維	評価	加工法
ポリエステル	○	熱可塑性
アセテート	△	熱可塑性
毛	○	シスチン結合
綿	△	架橋結合
絹	×	水素結合

絹への耐久性のある加工法は、まだ開発されていません。

洗濯ジワやスチームアイロンによる形づけと同じ程度の加工です。このため、水に濡れるとすっかりブリーツが消えてしまいます。雨の日の外出は避け、飲料のシミなどつけないように気をつけましょう。



# 繊維と服飾の物語



## 繊維製品の取扱表示記号が 8月から一部改正されます

2024年8月にJIS L 0001「繊維製品の取扱いに関する表示記号及びその表示方法」の一部が改正される予定です。日本工業規格（JIS）の改正は対応する国際規格が改正されたことを受け、海外の表示との整合化を図ることが目的です。

### ①記号の追加



・液温は、30℃を限度とし、手洗いによる洗濯処理ができる。（従来は液温40℃を限度）



・底面温度120℃を限度としてスチームなしでアイロン仕上げ処理ができる。  
\*スチームアイロンは回復できない損傷を引き起こす可能性があるからです。

### ②記号の意味の変更

・底面温度が〇〇〇℃（各10℃上昇）を限度としてアイロン仕上げ処理ができる。



【現状】200℃ → 【改正後】210℃



【現状】150℃ → 【改正後】160℃



【現状】110℃スチームなし → 【改正後】120℃  
(スチームなしを削除)

### ③記号の微修正

・手洗い記号の手の形状（手のひらのデザインが変わります。）



【現状】



【改正後】

・禁止を表す「×」の位置が少し上の位置に変わります

【現状】



【改正後】



## 手洗いマークの 意味を知っていますか？

◎「手洗い」は40℃または30℃以下の水で手洗い衣類についている取扱い表示のタライに手が入っている記号が「手洗い」のマークです。意味は「液温は、40℃または30℃を限度とし、手洗いによる洗濯処理ができる」となっています。



液温は30℃を限度

液温は40℃を限度



ところで、「手洗い」というのはどんな洗い方をいうのでしょうか？この表示の詳しい解説では「押し洗い、振り洗い又はつかみ洗いによる」とされています。とにかく優しく洗ってくださいねということです。

### ◎ゴシゴシともみ洗いは禁止

衣類に強い力をかけずに洗うということですから、ゴシゴシともみ洗いはいけないということになります。



もみ洗いは「手洗い」ではありません

繊細な生地によっては、糸目がずれたり、回復できない変形が起きたりするからです。